

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
 「日本化学会発行論文誌の国際競争力強化」
 （課題番号：251006）

学術団体名：公益社団法人 日本化学会
 学術刊行物の名称：Bulletin of the Chemical Society of Japan および Chemistry Letters
 事業期間：平成25年度～平成29年度

1 取組の概要

◇取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本化学会が発行する両誌は化学分野に於ける論文誌として日本、世界の化学の発展に貢献してきたが、世界のジャーナル市場における国際情報発信力は競合誌と比較して十分な状況ではない。本助成を活用し、欧米大手出版社との枠組みに捕らわれずに学会独自で戦略的取り組みを遂行する事により、両誌の情報発信力を強化し国際的認知度を向上させる。具体的取り組みとして、

1) 編集・出版体制の強化と国際化、2) グローバルな著者マーケティング活動、3) 効果的な情報発信と利用者数の増強を三本の柱として、これまで独自性が強かった両誌の取り組みを統合させ戦略的な活動を進める。

◇応募時に設定した取組の目標・評価指標

- ・両誌の協働体制強化、編集委員長リーダーシップ強化
- ・編集審査体制の国際化（海外審査委員数30%以上へ）
- ・投稿論文数の増加（3年後20%増、5年後60%増）
 →最終的にIF=3以上（2018年）を目指す。

2 目標の達成状況

◇現在までの目標の達成状況

1) 編集・出版体制の強化と国際化（図1）

・両誌協働体制強化のために「ジャーナル戦略委員会」を発足し定期的な会合を開催した。編集企画マネージャーも採用し、戦略的な取り組みを行っている。

・国際化強化：米国、欧州、アジア等の著名な化学者にシニアエディタに就任いただき、ネットワークを拡充した（各7名 アジア3, 欧3, 米2, 日6）。海外審査委員数の向上については、ほぼ目標値に達成。（図2）

2) グローバルな著者マーケティング活動

・Web of Science (WOS) の情報等を活用して候補者を厳選し投稿依頼を実施した。毎号のReview論文掲載へと結びついており、高被引用文献となる論文数も増えている。

・現在、採択率はBCSJ=48.4%、CL=45.3%、海外投稿比率はBCSJ=43%、CL=57%であり、改善を継続する。

3) 効果的な情報発信と利用者数の増強

・WOSの引用情報を活用し、ターゲットを絞った研究者へのメール配信サービスを実施した（数万件/年）。

・Hot articlesを収録した分野別カタログ（CSJ Journal Selects）を毎年発行。米国、中国等で開催された化学関係の主要国際会議で直接配布を行った。さらに本年は全会員への配布（24,000部）を実施し、本改革への理解と協力を要請した。

・Web Siteの大幅改定を2014年4月に実施。バーチャル特集号公開、OA論文数の最適化等の改善を継続中。

◇今後の計画

本活動の評価指標の一つであるIF値はBCSJ: 1.44(2011)→2.21(2014)、CL: 1.59→1.23の推移となっている。本助成は2013年後半にスタートしており、取り組みの効果がIF値に現れるのは来年以降であるが、対象年の論文がいかにも多く同年中に引用されているかを示す Immediacy Index (図3) では、2013年以降、徐々に底上げが出来ており、現在の取り組みを最適化しつつ継続する。

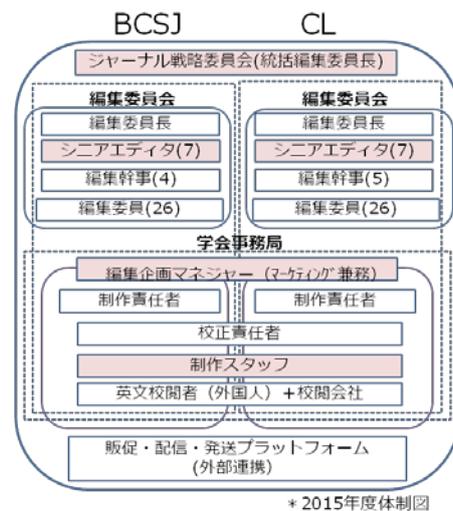


図1: 編集、出版体制

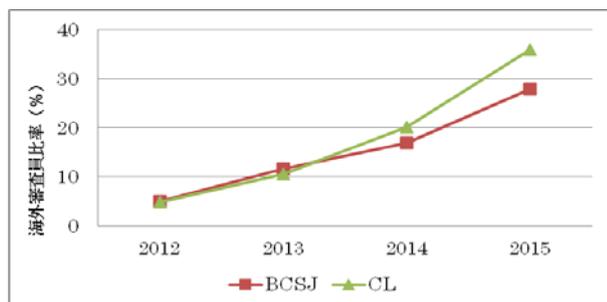


図2: 海外審査員比率の推移

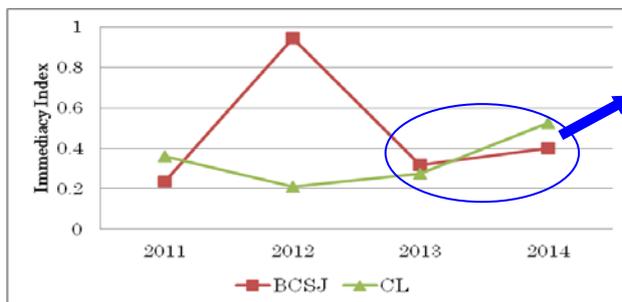


図3: Immediacy Indexの推移